

京奈和碎石場拡張事業に係る
事後調査結果（カワヂシャ）

令和 8 年 4 月

山 本 商 事 株 式 会 社

1. 調査目的

本調査は砕石場から濁水等の影響が及ぶ可能性のある重要な種であるカワヂシャについて、生育状況の現状把握を目的とした。

2. 調査内容

2.1 調査概要

カワヂシャの事後調査の概要は表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 事後調査の概要

調査項目	調査内容	調査時期	備考
カワヂシャのモニタリング調査	平成 27 年 4 月の調査で確認された重要な種であるカワヂシャの現状を把握するために、確認地点及び周辺の水辺を踏査する。	本種の開花時期である 4 月に実施する。	5 年ごとに実施し、砕石終了まで実施する。

2.2 調査方法

カワヂシャの調査方法は表 2-2 に示すとおりである。

表 2-2 調査方法

調査項目	調査方法
カワヂシャのモニタリング調査	平成 27 年 4 月に朝町川で確認されたカワヂシャの生育状況を確認し、株数、生育場所、生育状態、生育箇所数等を記録する。

2.3 調査工程

調査工程は表 2-3 に示すとおりである。調査は、事後調査計画に基づき 5 年ごとに実施する計画であり、第 1 回目は令和 3 年 4 月 23 日、第 2 回目（今回）は令和 8 年 4 月 24 日に実施した。

表 2-3 調査工程

調査項目	調査頻度	調査日程
カワヂシャのモニタリング調査	・ 5 年ごとに合計 11 回の調査を実施する。 ・ 10 回目の調査後に対象事業が終了するため、11 回目の調査で対象種の生育を確認して終了とする。 ・ なお、調査途中で生育が確認されなかった場合は、周辺部における生育地の確認を行い、関係者と調整しながら、今後の対応を検討する。	・ 1 回目：令和 3 年 4 月 23 日 ・ 2 回目：令和 8 年 4 月 24 日

2.4 調査位置

調査位置は図 2-1 に示すとおりであり、カワデシヤは朝町川下流の 1 ヶ所である。

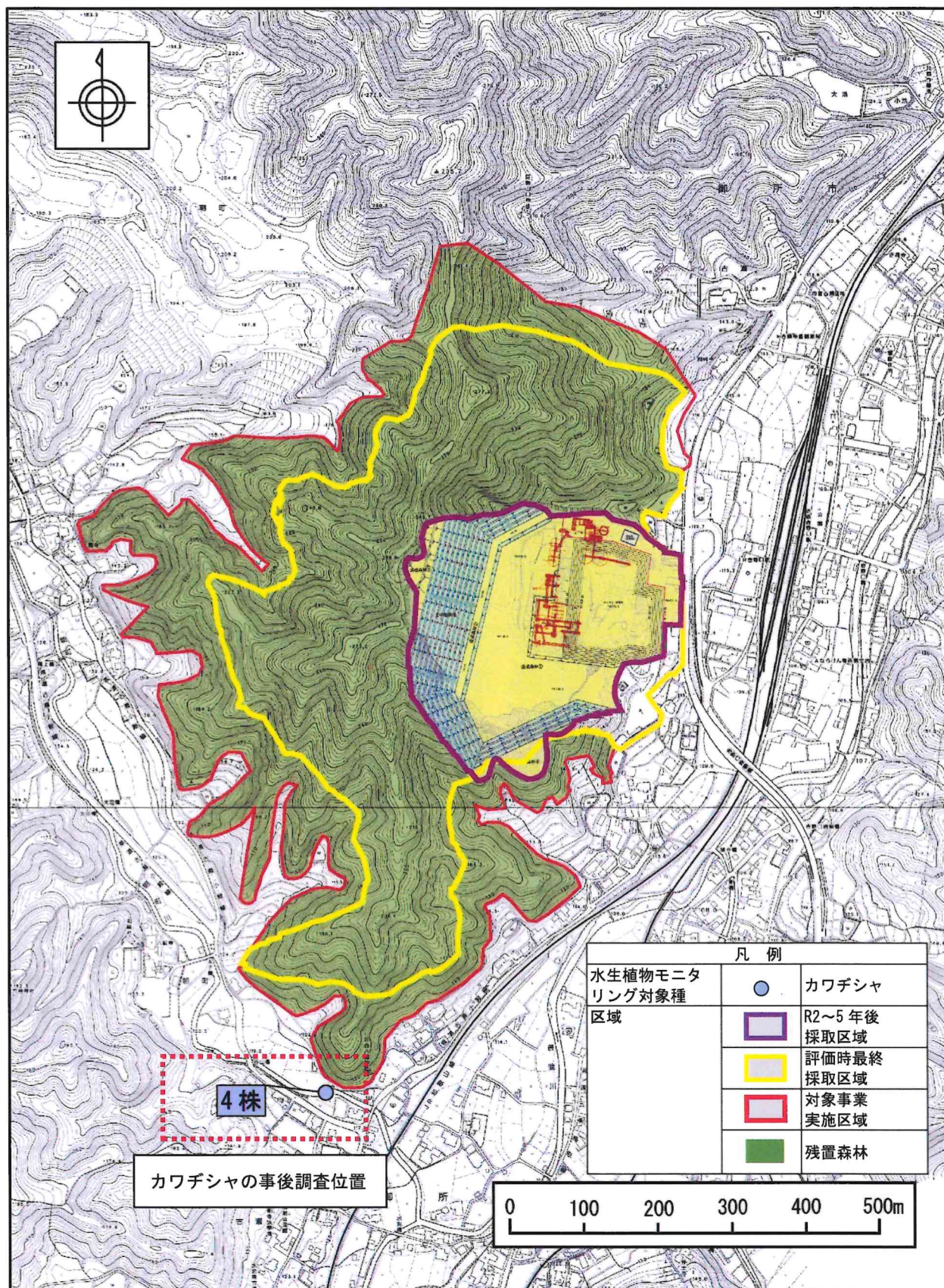


図 2-1 土地利用計画と水生植物モニタリング対象種（カワデシヤ）

2.5 調査対象種

調査対象種の生態情報は表 2-4 に示すとおりである。

表 2-4 カワヂシャの生態

○予測対象種

カワヂシャ

○選定基準

・「第5次レッドリスト（環境省）2025」：準絶滅危惧

・「奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版」：希少種

・「改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿 2001ー」：準絶滅危惧

○一般生態

・本州，四国，九州，沖縄に分布する。

・田の畦や川岸，溝のふちなどの湿った場所に生育する2年草であり、花期は4月～6月。

・奈良県では北部の川岸あるいは，山間や開発されていない旧市街地付近の用水路などに生育する。



現地で撮影（平成27年4月22日）

種名	生活期	生活サイクル												備考
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
カワヂシャ	花期													同時期に開花する外来植物のオオカワヂシャの生育も同所で確認されている
	植物体													

○調査地域における生息状況

・本調査では春季の植物相調査時に対象事業実施区域周辺の朝町川の1ヶ所で，4株を確認した

・確認環境は河道内の水際である。

・調査地域では水辺の狭い範囲に生育していた。

3. 調査結果

調査の結果、過去に確認された対象地点においてカワヂシャを確認することはできなかった。平成 27 年に確認された環境と令和 3 年及び令和 8 年の環境状況は図 3-1 に示すとおりである。

平成 27 年にカワヂシャが確認された場所は護岸沿いに植生が認められたが、令和 3 年と同様に令和 8 年も植生は認められなかった。また、流されたカワヂシャが下流で定着している可能性が考えられるため、曾我川との合流点まで踏査したが、本種を確認することはできなかった。さらに、朝町川の上流域はカワヂシャの供給源となる生育地がある可能性が考えられるため踏査を実施したが、図 2-1 の図郭内で本種を確認することはできなかった。



図 3-1 過去にカワヂシャを確認した環境と現在の状況

4. 今後の展開

平成 27 年に確認された場所でカワヂシャは確認されなかったが、カワヂシャの埋土種子が生育地周辺に存在し、生育条件が整うことができれば、再度確認される可能性はある。

しかし、朝町川の上流では、外来生物法により特定外来生物に指定されているオオカワヂシャが広く点在し、令和 8 年度の調査では合計で 42 株を確認した。オオカワヂシャの確認状況及び生態は表 4-1、確認位置は図 4-1 に示すとおりであり、オオカワヂシャはカワヂシャより繁殖力が旺盛で、カワヂシャとの雑種を作るため、カワヂシャの生育地がオオカワヂシャまたはその雑種に置き換わっている可能性がある。

当該地はオオカワヂシャの繁殖が旺盛であるため、カワヂシャの生育環境が圧迫されているが、生育可能な環境は残されているため、今後も引き続き生育状況を確認する必要があると考えられる。

表 4-1 外来種オオカワヂシャの確認状況及び生態

	
オオカワヂシャ	オオカワヂシャ確認環境
令和 8 年 4 月 24 日撮影	
(オオカワヂシャの確認状況)	
オオカワヂシャは朝町川流域に点在し、図郭内の上流から下流まで広く分布しており、合計で 42 株を確認した。	
(オオカワヂシャの生態)	
本種は外来生物法により、特定外来生物に指定されている。多年草で、全体が無毛、地中を横走する根茎から茎を直立し、高さ 1m ほどになる。鋸歯が不明瞭で全緑に近く、花が鮮やかな青紫色であることなどで、在来種カワヂシャと区別可能である。生育環境は在来のカワヂシャと同様であり、水路、河川、湿地の水際等である。開花時期は 4 月～9 月であり、根茎で栄養繁殖も旺盛に行う。本種が生育することの影響としては、在来種との競合、遺伝的攪乱等が考えられる。西日本では在来種との雑種のホナガカワヂシャに置き換わりつつある。	
(参考：国立研究開発法人 国立環境研究所 侵入データベース	
URL: https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/	

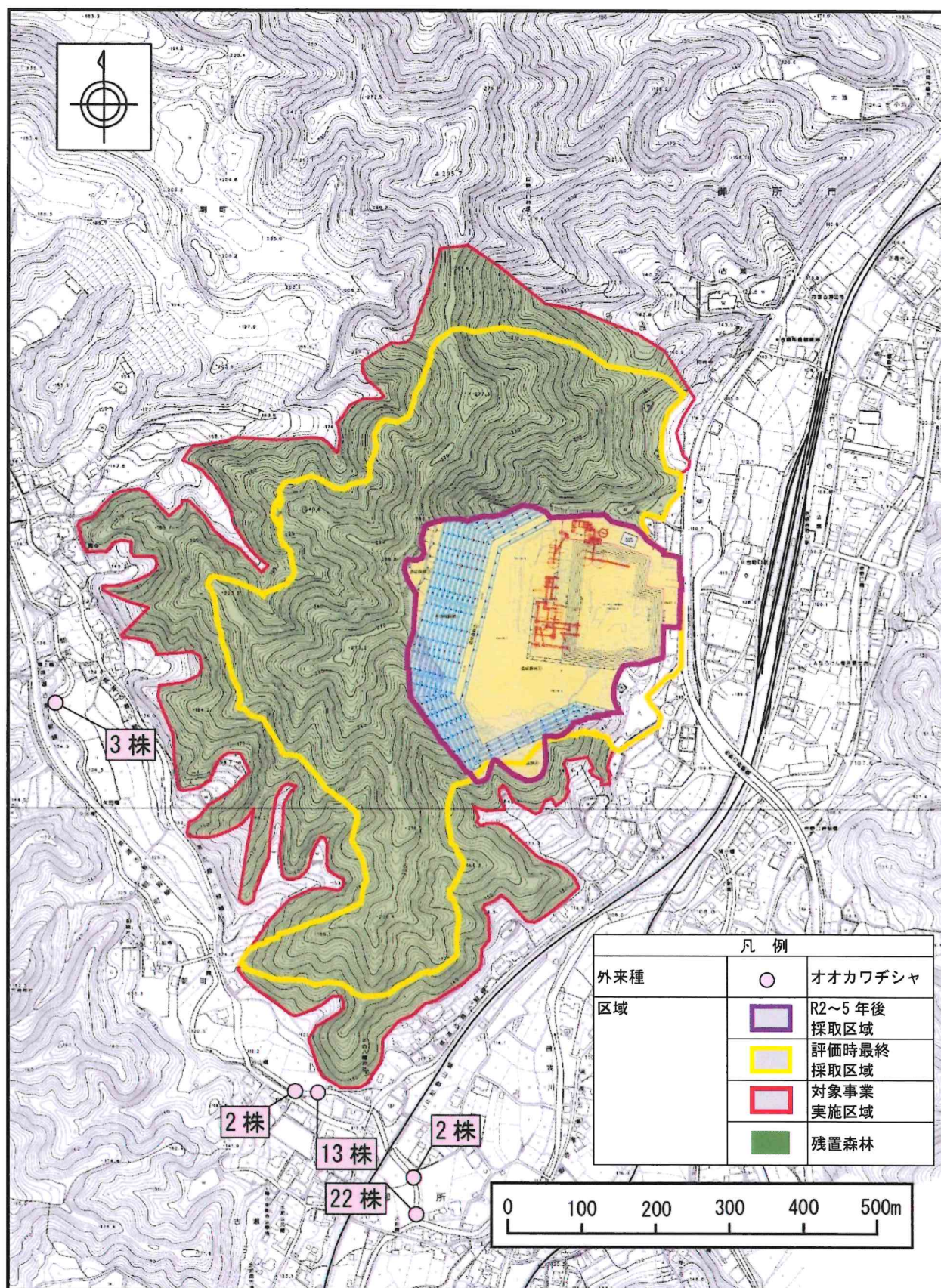


図 4-1 外来種オオカワデシヤの確認位置